

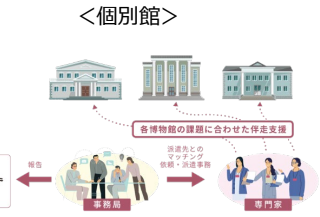
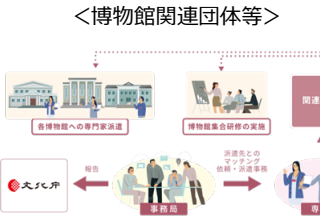
事業概要

■背景と目的

国内約5,700館の博物館では、2022年の博物館法改正やICOMプラハ大会で示された新たな定義により、求められる役割が急速に多様化・高度化している。しかしながら、7割以上の博物館で専門知見を持つ職員が不在であり、未解決の課題に十分に取り組めていないなど、これらの動向に対応できていない状況が依然として見られる。こうした中、学芸員や博物館職員の能力開発・資質向上が喫緊の課題となっている。昨年度の実証事業では、限定的ながらも専門的人材派遣の有効性が確認された。これらを踏まえ、本事業では専門家派遣制度を本格実施し、博物館の機能強化と人材育成を推進するとともに、成果と課題を整理・分析し、国内他館への横展開に向けたモデル構築を図る。

■事業の内容

昨年度実証事業の結果も踏まえて事業の実施方法を精査し、本事業では以下の内容で事業を実施した。特に、昨年度実証事業からの大きな変更点として、①支援回数を日数から時間数に変更②専門家を公募選定③対象を登録博物館・指定施設（申請中含む）に限定、の3点が挙げられる。

項目	内容
事業期間	2025年9月上旬から2025年2月末まで
支援テーマ	①デジタルアーカイブ、コンテンツ造成支援、知識・技術の提供 ②展示や広報発信の改善を行うための支援、知識・技術の提供 ③ファンドレイジング活動支援、知識、技術の提供
対象館	個別博物館等…30施設 ➤ 館種・規模は問わないが、登録博物館・指定施設のみ（申請中含む）が対象 博物館関連団体等…3団体 ➤ 地域の博物館協会や館種別団体・ネットワーク、または複数の館と連携した地域の中核的な位置づけを担う館（中核館）が対象 ➤ 加盟または連携する博物館に対する全体的な研修の実施や、各館における伴走支援について取りまとめを行うことを想定（必ず全体への研修実施と加盟・連盟館への個別館の両方を行うこと）
支援回数	個別博物館等 最大30時間（専門家による準備時間、報告書作成時間も含む） 博物館関連団体等 最大150時間（専門家による準備時間、報告書作成時間も含む）
派遣人数	専門家公募により選定された専門家原則 1 名（例外的に複数名の場合もあり）
費用負担	専門家派遣に関する費用は本事業主体が負担（※博物館側に費用負担は生じない）
支援スキーム	＜個別館＞  ＜博物館関連団体等＞ 

成果の概要

■事業全体の実施フロー

本事業では、事務局が博物館と専門家をそれぞれ公募選定し、博物館側の課題（ニーズ）に対して適切な専門性を有する専門家をマッチングしたうえで、実際の支援フェーズでは専門家と博物館が直接やり取りをすることで、円滑かつ効率的な支援の実現を図った。



■博物館公募/選定

博物館の公募にあたっては、昨年度事業と同様に事前に説明会を開催し、申請にあたって事業理解を深めていただく機会を提供した。本事業では、計 2 回にわたり公募を実施し、各テーマで以下の館を支援対象として採択した。

	デジタルアーカイブ	展示広報	ファンドレイジング	計
個別館	7	8	8	23
博物館関連団体等	－	1	－	1

■専門家公募/選定

専門家の公募は、事業HP及び各種団体等にて周知を図った上で、実施した。各テーマで以下の館を支援対象として採択した。

	デジタルアーカイブ	展示広報	ファンドレイジング	計
申請者数	10	18	8	36
採択者数	9	12	7	28

■マッチング検討/選定

専門家の公募は、事業HP及び各種団体等にて周知を図った上で、実施した。各テーマで以下の館を支援対象として採択した。詳細のマッチング結果については、「参考」ページにて示す。

■実際の支援

昨年度事業において、当初に博物館と専門家の期待値のすり合わせ（認識合わせ）を確実に行うことで支援効果が高めるとの示唆を得たことに加えて、今年度事業では専門家を広く公募したことも踏まえて、実際の支援時に「原則、事務局が初回往訪に同行」することで、期待値のすり合わせをサポートした結果、全ての支援で事故やクレームなく支援終了することができた。

■まとめ

支援終了後に実施した事後アンケートでは、博物館及び専門家の双方から、支援全体について高評価を得ることができた。また、この事後アンケート結果や支援期間におけるコミュニケーション等を踏まえて、次年度以降も本事業を継続発展させていくための示唆として 4 点を示しているが、ここでは主なものとして以下 2 点を示す。

○事務局による博物館側事情のタイムリーな把握

本事業は、館側が主体的に取り組むことが支援の前提となっている性質であることを踏まえると、館側の主体性を確認するための項目（本事業の支援における館側の担当者、支援を希望するに至った館側の具体的な理由等）について大きな変更があった場合には、必ず報告を行うことを支援の条件として位置付けることも検討に値する。

○支援テーマの拡充

現在、3テーマとしていところ、に、「地域連携」を新規追加。法改正趣旨にも合致するとともに、文化庁が推進する文化観光の取組や地域振興施策においても、博物館が地域資源の中核として機能することが期待されている。さらに、本テーマは外部専門人材（地域振興、観光、プロデュース等）との親和性も高く、専門家の確保可能性の観点からも実現性が高い。

○ マッチング結果

分野	博物館名	専門家（敬称略）
デジタルアーカイブ	釧路市立美術館	影山 幸一
	よこはま動物園	早稻田システム開発株式会社
	貝塚市立自然遊学館	ナカシャクリエイティブ株式会社
	広島城	宮丸 康子
	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	TRC-ADEAC株式会社
	DIC川村記念美術館	ナカシャクリエイティブ株式会社
	しばたの郷土館	TRC-ADEAC株式会社
展示・広報	観峰館	加藤 里奈
	新宿歴史博物館	髷田 亜紀子
	肥後の里山ギャラリー	石井 誠
	埼玉県立自然の博物館	東京ブランディングマーケット
	青森県立郷土館	青田 浩治
	島田市美術館	若月 憲夫
	静岡市歴史博物館	日テレWands
	久万美術館	鈴木 榮一
	日本植物園協会 ―富山県立中央植物園 ―東南植物楽園 ―武田薬品京都薬用植物園	日テレアックスオン 高山 敦 日テレアックスオン 日テレWands
ファンドレイジング	古川美術館	御手洗 薫
	平塚市美術館	瀬上 倫弘
	茅ヶ崎市美術館	瀬上 倫弘
	砺波郷土資料館	石井 大輔
	豊橋市自然史博物館	鈴木 開道
	千葉市動物公園	鎌倉 幸子
	福岡市博物館	廣安 ゆきみ
	桑名市博物館	廣安 ゆきみ

○ 事後アンケート結果

＜専門家側＞

セクション	設問	全体	分野別		
			DA	展示・ 広報	FR
制度全体	支援制度全体	5	4.5	4	5
	事業開始時の期待値との乖離	4	4.5	4	4
	支援内容	5	5	4	5
	支援期間	4	4	4	4
	総支援時間	4	5	4.5	4
	支援回数	5	5	5	4
	諸手続き	5	5	5	5
	HPや説明会の明瞭さ	4.5	4.5	4.5	4.5
	応募手続き	5	5	5	5
実施結果	マッチングの適格性	5	5	4	5
	専門家のスキル	5	5	5	5
	専門家とのコミュニケーション	5	5	5	5
	専門家の支援に対する姿勢	5	5	5	5
	支援頻度	5	5	5	4.5
事務局の対応	制度に関する説明・案内	4	4.5	4	4
	諸手続きの説明	4	4.5	4	5
	日常的なコミュニケーション	3.5	4	3	4
	初回打合せの運営	5	5	4	4.5
博物館スタッフ の能力開発・ 人材育成の成果	現地往訪時の対応	5	5	4	5
	知能・スキル、スタッフの自信やモチベーションは期待通り向上したか	4	5	4	5
	人材育成以外の事業上の成果は得られたか	4	5	4	4
	その他の波及効果は得られたか	4	4	4	3.5

＜博物館側＞

セクション	設問	全体	分野別		
			DA	展示・ 広報	FR
公募について	HPや説明会の明瞭さ	4	4	4	5
本支援制度に 対する評価	支援制度全体	5	5	4	5
	支援内容	4	4	4	4.5
	支援期間	4	4	2	5.0
	支援時間・回数	4	4	3	5
	諸手続き	4	4	4	5
博物館に対する 評価	育成人材の対象が明確だったか	4	5	4	4
	スキル獲得の意識	5	4.5	5	5
	初回面談時の乖離	4.0	4.0	4	3.5
	協力度	5.0	5.0	5.0	5.0
	目標達成度	4.0	4.0	4.0	5.0
	事前理解 （開始前）	5.0	4.0	4.0	5.0
	支援内容理解 （開始後）	5.0	5.0	4.5	5.0
事業成果に 対する評価	人材育成への貢献	4.0	5.0	4.0	4.0
	課題解決への貢献	5.0	5.0	5.0	5.0
	スキル活用度	4.0	4.0	4.0	4.0
	スキル向上	5.0	5.0	5.0	5.0
	課題理解	4.0	4.0	4.0	5.0
	キャリア・本業への効果	5.0	4.0	4.5	5.0
運営事務局に 対する評価	制度に関する説明・案内	5.0	5.0	5.0	5.0
	諸手続きの説明	5.0	5.0	4.0	5.0
	日常的な コミュニケーション	4.0	5.0	3.5	4.5
	初回打ち合わせの 運営	5.0	4.0	4.5	5.0
	現地往訪時の対応	5.0	5.0	4.0	5.0